

# 一人暮らしってやっぱり憧れ？

## 問い)

重度・重複障害がある人の一人暮らしは難しいことなのか。実際に一人暮らしをしている人はどのような暮らしをしているのか。



## 問いの背景)

重度・重複障害がある人々は目や耳、体が不自由であり家事をするにも自ら身の周りの世話をするにも様々な援助が必要になってくる。憧れの対象になることが多く、自由な生活ができる一方、毎日たくさんの家事をこなす自分の身の周りの世話も自分でやらなければいけない一人暮らしは重度・重複障害をもつ人々にとってどのようなものなのか疑問に思った。

## 調査結果)

### 一人暮らしをすることの意義

まず、一人暮らしをするということは重度・重複障害を持つ人にとってどのような変化をもたらすのかを考えてみた。一人暮らしと言えば、やはり第一に「自立」というイメージがある。障がいの程度等にもよるが、一人暮らしをすれば自分の身の回りのことを自分で行わなければならない機会が増える。また、一人の時間が増え自由に趣味に時間を費やしたり勉強をしたりできる。このような環境で時間や健康などの管理をしながら生活しなければならないため、家族と暮らすよりも自活しているという感覚が強くなると予想できる。

### 重度・重複障害を持つ人が一人暮らしをするための支援

重度・重複障害を持つ人々が一人暮らしをするためにはどのような支援が必要なのだろうか。各自治体によって異なるが、まず熊本市では“熊本市障がい者相談支援センター”に一人暮らしをしたいと言う事を相談し、障害種や程度に合わせて利用すべき福祉サービスや専門機関を紹介してもらう事から始めることが考えられる。その後に考えられる支援の例をここに記述する。

“NPO 法人地域ふれあいホームリンク 障がい者支援センターリンク”という様々な機関や地域と連携しながら障がいを持つ人々とその家族の生活を支援していく法人がある。生活介護や自立訓練を行い障がいを持つ人々の一人暮らしを支援している。しかし、定員や障害支援区

分の条件が定められているため、自分の条件に合ったサービスをしっかり探すことが求められる。

### 実際に一人暮らしをしている重度・重複障害を持つ人の意見

実際に一人暮らしをする重度・重複障害を持つ人はどのような暮らしをし、どのようなことを実感しているのだろうか。調査をするうえで、重度・重複障害を持つ人で一人暮らしをしている人の実例は多く見られた。京都新聞の記事で重度の知的障害を持つ方のヘルパーの話をもとめたものがあつた。記事によると、自分で家事をこなしたり趣味の世界を広げており自立した生活を楽しんでいると言う事である。新居になじめないこともあつたそうだが時を経て一人暮らしを楽しめるようになったという。

## 考察)

一人暮らしは人々に自立と多くの自由を与え、自活の実感を得られるものである。それは重度・重複障害を持つ人にとつても同様に言える。各自治体や様々な機関と連携した法人などが様々あり重度・重複障害を持っていて家事などをこなすことが困難であっても一人暮らしを実現することは可能である。それぞれの障害や程度に合わせた適切な支援制度を利用し、様々な人々の力添えが必要である。困難なことも経験することもあると言えるが、本人の意思を尊重し自立した生活を送るという体験を通して各個人の幸せに生きる権利を行使できるようにしなければならない。



## 参考文献)

1. NPO 法人地域ふれあいホームリンク 障がい者支援センターリンク  
<https://link-amakusa.jp/>
2. 京都新聞. 重度知的障害者の一人暮らし 佐々木元治さん「自立生活 楽し!!」出版  
.2021年8月25日  
<https://www.kyoto-np.co.jp/articles/-/622921>